

雁頭沢 下原山 茂佐久保 遺跡  
(第4次) (木) (第3次)

平成4年度 住宅建設に  
伴う緊急発掘調査報告書

9585

1993. 3

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の1 表紙○印が雁頭沢、裏表紙○印が下原山茂佐久保遺跡

# 序

このたび平成4年度の雁頭沢遺跡第4次発掘調査、下原山茂佐久保遺跡第3次発掘調査報告書を刊行することとなりました。

調査の結果、幸いに2遺跡とも遺跡の中心部から外れていたことがわかり、破壊された範囲は最小限にとどまっています。

村内には、90ヵ所をこえる遺跡が知られていますが、近年は個人住宅建設に関連した遺跡内の土木工事も多くなってきています。本年の調査件数は2件でしたが、貴重な文化遺産を大切にするとともに、後世に伝えていく責任を強く感じるものであり、こうした開発の流れの中で、いかなる形で遺跡を保護していくか、最も妥当な方法を検討しているところであります。

このたびの発掘にあたり、県教育委員会の御指導ならびに発掘にかかる多くの皆様の御協力に深甚なる謝意を表する次第であります。また、土地所有者各位、工事関係者の方々、そして調査地に隣接した多くの皆様の御好意、御協力に対し厚くお礼申し上げます。

平成5年3月

原村教育委員会

教育長 平林 太尾

## 例　　言

- 1 本報告は、長野県諏訪郡原村室内に所在する雁頭沢遺跡の第4次緊急発掘調査と、同柏木と茅野市金沢木舟に所在する下原山茂佐久保遺跡の第3次緊急発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、国庫および県費から発掘調査費補助金交付をうけた原村教育委員会が、雁頭沢遺跡は平成4年5月1日から22日、下原山茂佐久保遺跡は平成4年5月1日から6月22日にかけて実施した。整理作業は、平成5年1月4日から2月27日まで行なった。
- 3 現場における記録と写真撮影は平出一治・平林とし美、図面の作図とトレースは平林、執筆は雁頭沢遺跡は平林、下原山茂佐久保遺跡は平出が行なった。
- 4 本調査の出土遺物・記録等はすべて原村教育委員会で保管している。なお、本調査関係の資料には、雁頭沢遺跡は53・下原山茂佐久保遺跡は94の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、市沢英利・小池幸夫・百瀬新治・武藤雄六・小林深志の諸氏をはじめ多くの方から御指導・御助言をいただいた。厚く御礼申し上げる次第である。

## 目　　次

### 序

### 例　　言

### 目　　次

|         |            |    |
|---------|------------|----|
| I       | はじめに       | 1  |
| II      | 発掘調査の経過    | 1  |
| III     | 調　　査　の　方　法 | 3  |
| IV      | 雁　頭　沢　遺　跡  | 3  |
| V       | 下原山茂佐久保遺跡  | 7  |
| VI      | 結　　語       | 10 |
| 引用・参考文献 |            |    |

## I はじめに

村内をはじめ隣接地域ではここ数年、宅地や工業団地の造成が盛んに行なわれるようになってきている。たまたま平成4年度に、室内の雁頭沢遺跡（原村遺跡番号53）と柏木の下原山茂佐久保遺跡（同94）に住宅が建設されることを知り、その保護については、長野県教育委員会文化課の指導を受けるなかで、関係者と協議を行ない協力をいただくことができたので、事前に緊急発掘調査を実施し記録保存をはかることとした。

雁頭沢遺跡は、地理的にみて公共施設である役場・小学校および中学校に近いこともあり、宅地化が急速に進んでいる。また、下原山茂佐久保遺跡は山林であったが、道路に隣接していたことから計画されたようである。

当村における開発をみると、生活の柱が農業であることから耕地をつぶすことはまだ少ないようである。また、農業振興法や面積整備事業が施工された地域の開発は難しく、開発できる地域は限定されてくるようで、道路に隣接する山林に目が向けられる機会が多くなってきている。「山林だから遺跡は保護される」との安易な考えは捨てなければならないようである。

発掘調査は、原村教育委員会が国庫および県費から発掘調査補助金交付をうけて、雁頭沢遺跡は平成4年5月1日から22日、下原山茂佐久保遺跡は平成4年5月1日から6月22日にわたり実施した。

## II 発掘調査の経過

### 1 雁頭沢遺跡

平成4年5月1日 発掘準備をはじめる。

5月21日 グリッド設定をおこない平面発掘をはじめる。

尾根上ということもあります、深い箇所はソフトローム層まで60cmを計る。遺物は少量であるが、各グリッドから出土した。

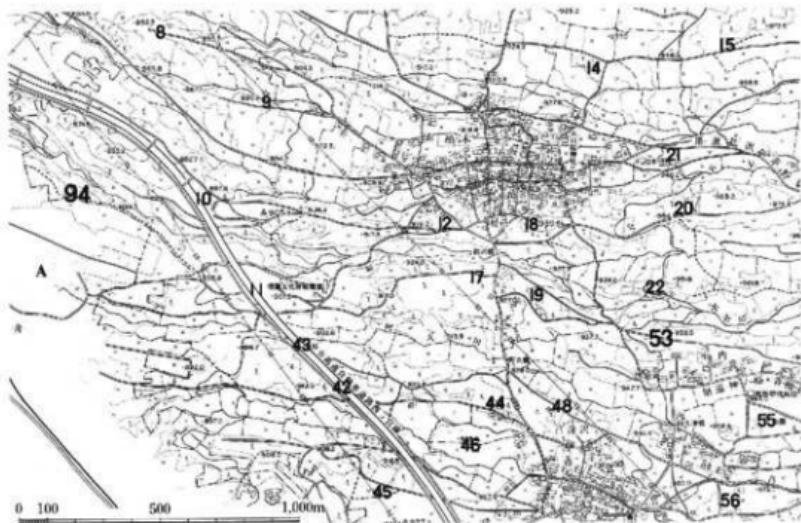
5月22日 引き続きグリッド発掘を行うが、遺物の発見は少ない。遺構を検出するまでに至らなかったことから、グリッド杭・機材の片付けを行う。今日で調査は終了する。

### 2 下原山茂佐久保遺跡

平成4年5月1日 発掘準備をはじめる。

第1表 雁頭沢・下原山茂佐久保遺跡と付近の遺跡一覧

| 番号 | 遺跡名     | 旧石器 |   |   |   |   | 縄文 |   |   |   |   | 弥生 | 古墳 | 奈良 | 平安 | 中世                 | 中世        | 備考 |
|----|---------|-----|---|---|---|---|----|---|---|---|---|----|----|----|----|--------------------|-----------|----|
|    |         | 草   | 早 | 前 | 中 | 後 | 晩  | 生 | 墳 | 良 | 安 |    |    |    |    |                    |           |    |
| 8  | 比丘尼原北   |     |   | ○ | ○ |   |    |   |   |   | ○ |    |    |    |    |                    |           |    |
| 9  | 比丘尼原    |     |   |   |   | ○ |    |   |   |   | ○ |    |    |    |    |                    |           |    |
| 10 | 柏木南     | ○   |   |   | ○ | ○ |    |   |   |   | ○ |    |    |    |    |                    | 昭和51年発掘調査 |    |
| 11 | 阿久      |     | ○ | ○ | ○ | ○ | ○  |   |   |   | ○ |    |    |    |    | 昭和50~53年発掘調査       |           |    |
| 12 | 前沢      |     |   |   | ○ |   |    |   |   |   | ○ |    |    |    |    | 昭和55~61年発掘調査       |           |    |
| 14 | 裏長峰     | ○   |   |   |   | ○ |    |   |   |   | ○ |    |    |    |    | 平成4年発掘調査           |           |    |
| 15 | 程久保     |     |   |   | ○ |   |    |   |   |   | ○ |    |    |    |    | 平成4度発掘調査           |           |    |
| 17 | 白ヶ原     |     |   |   | ○ |   |    |   |   |   | ○ |    |    |    |    | 昭和53年発掘調査          |           |    |
| 18 | 前尾根西    |     |   |   | ○ |   |    |   |   |   |   |    |    |    |    | 昭和51年一部破壊          |           |    |
| 19 | 南平      |     |   |   | ○ |   |    |   |   |   |   |    |    |    |    |                    |           |    |
| 20 | 前尾根     |     |   |   |   | ○ | ○  |   |   |   | ○ |    |    |    |    | 昭和44~52~54~59年発掘調査 |           |    |
| 21 | 上居沢尾根   |     | ○ |   | ○ |   |    |   |   |   | ○ |    |    |    |    | 平成4年度発掘調査          |           |    |
| 22 | 清水      |     |   |   |   | ○ |    |   |   |   |   |    |    |    |    |                    |           |    |
| 44 | 原山      |     |   |   | ○ |   |    |   |   |   | ○ |    |    |    |    | 昭和50年一部破壊          |           |    |
| 45 | 広原日向    | ○   |   |   | ○ | ○ |    |   |   |   | ○ |    |    |    |    | 昭和58年発掘調査          |           |    |
| 46 | 宿尻      |     |   | ○ |   |   |    |   |   |   |   |    |    |    |    |                    |           |    |
| 48 | 楡の木     |     |   | ○ |   |   |    |   |   |   |   |    |    |    |    | 昭和53年一部破壊          |           |    |
| 53 | 雁頭沢     |     |   | ○ |   |   |    |   |   |   | ○ | ○  | ○  |    |    | 昭和54~57~63年発掘調査    |           |    |
| 55 | 中尾根     |     |   |   | ○ | ○ |    |   |   |   | ○ |    |    |    |    |                    |           |    |
| 56 | 家前尾根    |     |   | ○ |   |   |    |   |   |   | ○ |    |    |    |    | 昭和51年一部破壊          |           |    |
| 94 | 下原山茂佐久保 |     | ○ | ○ | ○ |   |    |   |   |   |   |    |    |    |    | 平成3年発掘調査           |           |    |
| A  | 阿久尻     |     | ○ | ○ | ○ |   |    |   |   |   | ○ |    |    |    |    | 茅野市                |           |    |



第1図 雁頭沢・下原山茂佐久保遺跡の位置と付近の遺跡 (1:20,000)

- 5月21日 グリッド設定を行う。
- 6月20日 グリッド発掘をはじめる。
- 6月22日 グリッド発掘を行い、III A-50グリッドで縄文土器の底部破片を発見した。  
遺構を検出までに至らなかったことから、グリッド杭・機材の片付けを行う。  
今日で調査は終了する。

### III 調査の方法

発掘に先立ち、発掘区域にならった $2 \times 2\text{m}$ のグリッドを設定し、東西方向は、西からA~Yのごとく区分し、南北方向には算用数字をふった。雁頭沢遺跡の南北方向は、発掘地区的北ラインを50とし、南に行くにしたがい49・48・47と小さくなるように振分けた。下原山茂佐久保遺跡は南ラインを50とし、北に行くにしたがい51・52・53と大きくなるようにした。これは、住宅建設用地が、雁頭沢遺跡は尾根上の中心より南側に位置し、下原山茂佐久保遺跡はその反対の北側に位置したことから、50ラインの設定を南と北に置いた違いである。

個々のグリッドの呼びかたは、第3図の雁頭沢遺跡のグリッドでみると、左上の発掘グリッドは、東西方向はAラインにあたり南北方向は50ラインで、それは「A-50」となる。本調査を便宜上第4次発掘調査と呼んだことから、「A-50」の前に第4次発掘調査を示す「IV」を表記し、「IVA-50」とした。

下原山茂佐久保遺跡のグリッドも呼び方は同様であり、第3次発掘調査であることから、第7図の左下発掘グリッドは「III A-50」となる。

グリッド発掘は、ソフトローム層上面まで行い、発見した遺物はグリッド別、層位別に取り上げた。

### IV 雁頭沢遺跡

#### 1 位置と環境

雁頭沢遺跡（原村遺跡番号53）は、JR中央東線茅野駅の東南方約6.5kmの長野県振訪郡原村室内にある。原村役場の西方約1kmというように地理的条件に恵まれていることもあり、付近の宅地化は急激に進んできている。

遺跡は、東の八ヶ岳から流下する人早川と阿久川という2本の小河川によって北と南を浸蝕された東西に細長い尾根上にある。標高は960m前後を測り、遺跡が立地する平坦部は幅80m位とあまり広くなく、その平坦部もやや北西に傾斜している。地目は普通畑で地味は良い。南斜面は

比較的なだらかな傾斜をもっているのに対し、北の大早川側はかなり急な斜面となっている。

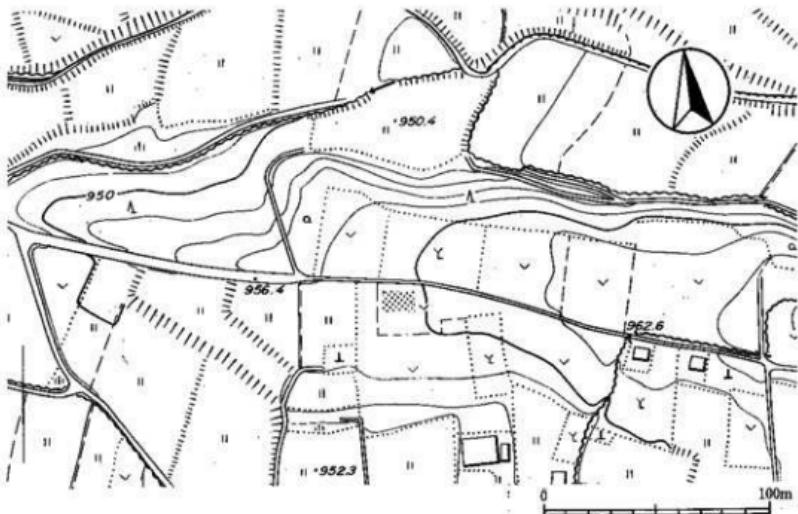
これより西は、約2,500m先でフォッサマグナの西縁である糸魚川一静岡構造線の断層崖に沿って北へ流れる宮川によって断ち切られる。

八ヶ岳西南麓一帯の尾根には、縄文時代を中心とした遺跡が数多く埋蔵されている。本遺跡の周辺には第1図および表1に示したように大小様々な遺跡が分布している。その密度は極めて高い地域で、この尾根筋の西方約1.7kmには国史跡の阿久遺跡がある。なお、原村における遺跡の高度限界は標高1,200m前後のラインである。

## 2 今までの調査

早くから遺跡の存在はしられていたが、昭和40年頃に地主の小林重人氏が水田造成工事の折に、縄文時代中期中葉の藤内I式の一括資料を発見している。その一部は原村教育委員会で保管しているが良好な資料である。

村道拡張工事に伴う緊急発掘調査を2次にわたって行なっているが、便宜的に昭和54年度調査を第1次発掘調査、57年度調査を第2次発掘調査と呼んでいる。第1次発掘調査では、縄文時代中期中葉の藤内式の住居址1軒と小竪穴4基、第2次発掘調査では、近世の沙址1と時代不詳の配石1を発見調査している。昭和63年に住宅団地造成に伴う第3次緊急発掘調査を実施し、縄文時代中期の住居址6軒、小竪穴82基を発見している。住居址の帰属時期は初頭の九兵衛尾根、中葉の藤内・井戸尻式である。村内では数少ない中期初頭から中葉の集落遺跡であることがわかつ



第2図 駆頭沢遺跡第4次発掘調査区域図・地形図(1:2,500)

てきている。その集落跡は、今までの調査結果からみて、環状になるものと思われるが、南東部分は墓地によって一部破壊されているようである。

### 3 土 層

第3図のグリッド配置図に示したように、12グリッド48m<sup>2</sup>の平面発掘を実施したが、出土遺物は少なく、遺構を検出するまでに至らなかった。

ソフトローム層までの深さは、グリッドによって違いがみられたが40~60cmを計る。

層序は、IVE-48グリッドの西壁の観察結果を記しておきたい。

第Ⅰ層 黒褐色土層 表土層・畑の耕作土で10~15cmを計る。

第Ⅱ層 黒色土層 8~10cmを計り、第Ⅰ層よりしまっている。

第Ⅲ層 黒褐色土層 20~25cmである。縄文時代の遺物の出土は、本層がもっとも多い。

第Ⅳ層 ローム漸移層 10cm前後を計る。

第Ⅴ層 ローム層

### 4 遺 物

発掘調査の結果、縄文時代と平安時代の遺物を僅かに発見しただけである。

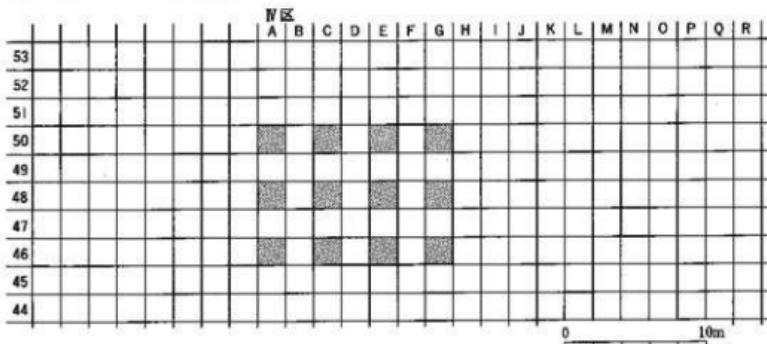
#### (1) 縄文時代の遺物

縄文時代の遺物は土器と石器がある。

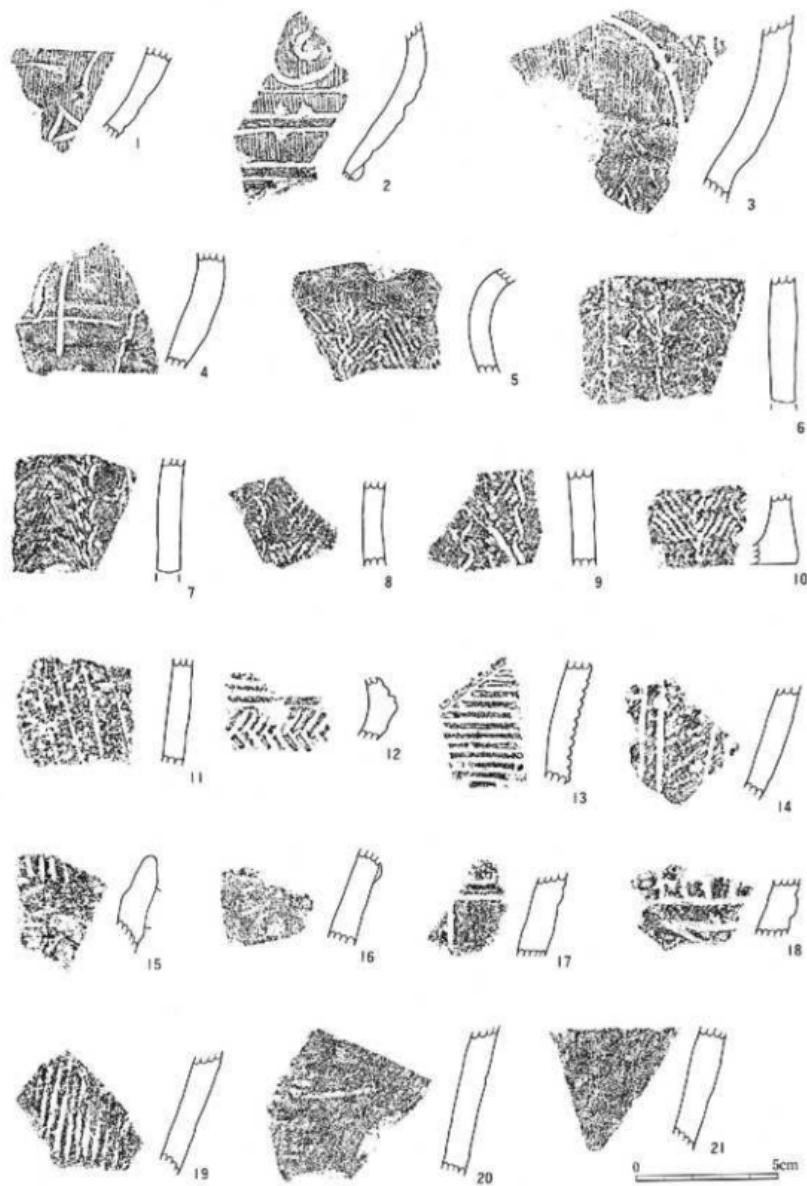
##### 土 器 (第4図)

土器は破片ばかり46点発見し、そのほとんどが中期初頭のものである。また胎土・成形・焼成からみて、同一個体のものと思われるものもある。

第4図1・2は比較的薄手で、胎土・焼成とも良く、器壁内面には成形時における丹念な磨き



第3図 鴨頭沢遺跡グリッド配置図 (1:400)

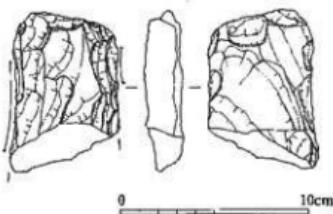


第4図 雁頭沢遺跡出土土器拓影 (1:2)

が認められる。3・5・8は1・2同様胎土・焼成・成形とも良好で、厚みがある。6・7は胎土に多くの白い砂粒を含み、ボロボロとした感じであり、成形時の輪積み痕が顕著に残る。6には、わずかであるが器壁内面に炭化物の付着がみとめられた。10は中期初頭の特徴的な底部破片で、底部縁の部分に拓影には見られないが竹管工具による押し引きがみられる。11は、胎土に多量の白い砂粒を含み、風化が著しい。12・13は胎土・成形・焼成とも良好であり、13は金雲母をたくさん含んでいる。15、口縁部破片で隆帯の貼り付けが剥落している。16はいわゆる平出第三類Aと呼ばれる土器である。17~19は中期中葉の土器破片で、17は胎土に白い砂粒を含み、18は成形が微密である。いずれも風化が著しい。20・21は無文土器破片で帰属時期は明確でない。

#### 石 器 (第5図)

石器は少なく、第5図に示した打製石斧1点と、図示できなかったが黒曜石の小剥片が7点である。打製石斧は、輝岩製で刃部側を欠損する半欠品である。基部の両側面には、製作時に生じたと思われる敲打によるつぶれ痕が観察される。



第5図 鷹頭沢遺跡出土石器実測図(1:3)

#### (2) 平安時代の遺物

発見したのは灰釉陶器1点で、器形が判別できない位の小破片である。

### 5 ま と め

住宅建設という限られた範囲の調査で、縄文時代は「遺物」の項で述べたように発見した遺物数はそれほど多くなかったし、遺構を検出するまでに至らなかつたこともあり、本調査結果から遺跡の性格を述べることはできない。

平安時代の灰釉陶器の発見は、僅か1点だけであったが、調査地点より東方に展開する緩やかな南傾斜は、いわゆる日溜まり地形となっており、当地方における典型的な平安時代の遺跡立地であることから、平安時代の遺構の埋没を容易に考えられる資料となろう。

## V 下原山茂佐久保遺跡

### 1 位 置 と 環 境

下原山茂佐久保遺跡（原村遺跡番号94）は、原村柏木区の西方約1,500mに位置し、国史跡「阿久遺跡」の西方に隣接する。この辺りは茅野市（旧金沢村）と原村の市村が境界を接し合うところで、遺跡は茅野市と原村にまたがっているが、茅野市地籍は平成3年度に実施された県営金沢工業団地造成によって遺跡は消滅している。

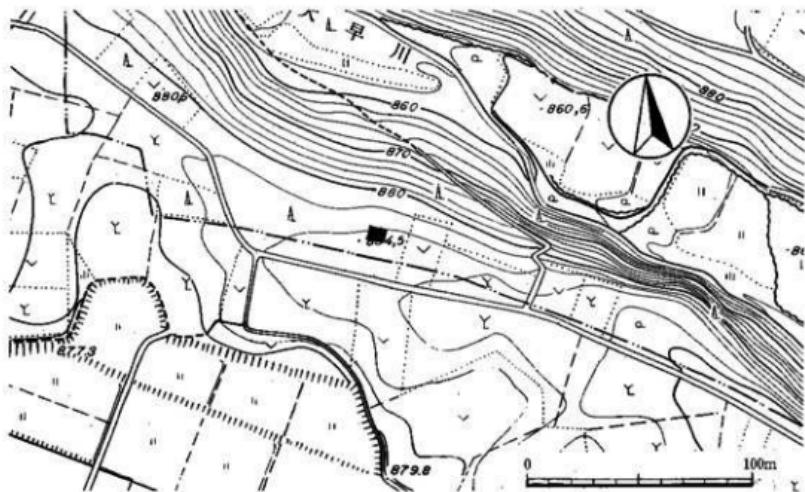
付近には、第1図および表1に示したように大小様々な遺跡が分布している。その密度は極めて高い地域で、中央自動車道の建設に伴って発掘調査された阿久遺跡をはじめ、柏木南・居沢尾根といった縄文時代と平安時代の大小様々な遺跡が点在している。また、本遺跡の南には阿久尻遺跡があり、県営金沢工業団地造成計画に伴う緊急発掘調査で、縄文時代前期の集落跡が発見され、保存問題が浮上したことは記憶に新しい。

地理的にみると、宮川の支流の一つ八ヶ岳の西麓を流下する阿久川と大早川に挟まれた地域で、阿久遺跡が立地する尾根が二つに分かれ。その北側の尾根に本遺跡が立地し、南側の尾根が前記した阿久尻遺跡である。

標高は850m前後を示し、地目は普通畠と山林である。調査地点は山林であったが、以前は畠として耕作していたことを聞いている。

## 2 今までの調査

本遺跡が確認されたのは古いことではなく、平成2年度に県営金沢工業団地造成に先立って行われた踏査で、土器破片を採集したことにはじまる。大半が山林であるため遺跡の広がりを明確にできなかったようで、平成2年に長野県教育委員会は遺跡の広がりを把握するための詳細分布調査を実施している。この調査を便宜上第1次発掘調査と呼ぶことにした。平成3年には、茅野市教育委員会が県営金沢工業団地造成に伴う緊急発掘調査を実施している。この調査を第2次発掘調査と呼んでいいきたい。



第6図 下原山茂佐久保遺跡第3次発掘調査区域図・地形図 (1:2,500)

第2次発掘調査は、遺跡をA～Dの4地点に分け調査を実施している。その中のD地点が本調査対象地区に隣接し、縄文時代の土器破片が発見されている。D地点の調査については『県営金沢工業団地造成計画にかかる下原山茂佐久保遺跡の調査の概要』に次のように記載されている。

D地点：部分的に暗褐色土の遺物包含層が残る（No. 4～No. 5 トレンチの間の農道際）が、他はローム漸移層の上に表土がある。この地点についても農地等の造成のために削平があったことが土層の堆積状況から知ることができた。遺物は表土中から縄文中期の土器片が2点出土したのみで、ローム層を掘り込むような遺構は検出されなかった。生活の痕跡があるとすれば、No. 4～No. 5 トレンチの間でも農道際の原村分にあると予想される。

しかし、調査の結果、縄文時代と思われる土器破片1点を発見しただけで、遺構を検出するまでは至らず、第2次調査で述べているような明らかな生活の痕跡を確認することはできなかつた。

### 3 土 層

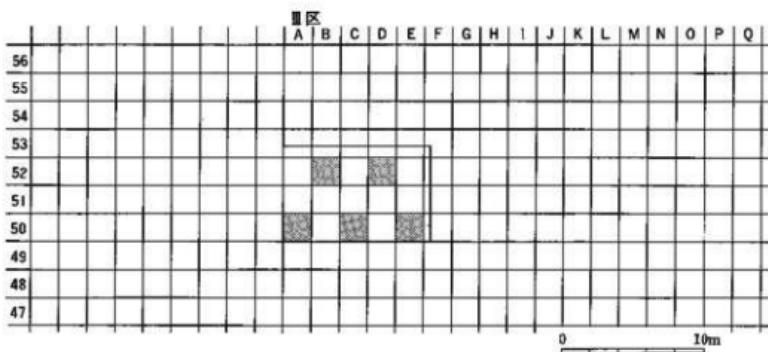
第7図のグリッド配置図に示したように、5グリッド20m<sup>2</sup>の平面発掘調査を実施したが、III A-50グリッドで縄文土器の底部破片を1点発見しただけで、遺構を検出するまではいたっていない。

ローム層までの深さは、グリッドによって違いがみられるが42～71cmを計測した。基本層序は次のとおりであり、おおまかな観察結果を記しておきたい。

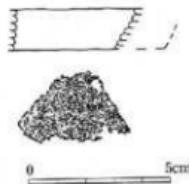
第I層 黒褐色土層 山林の表土層で10～15cmを計る。

第II層 黒色土層 第I層よりしまっている。厚さは15～37cmを計る。

第III層 ローム漸移層 10cm前後を計る。



第7図 下原山茂佐久保遺跡グリッド配置図 (1:400)



第8図 下原山茂佐久  
保遺跡出土土器拓影 (1:2)

## 4 遺 物

発見した遺物は土器破片1点である。

第8図に示したが、底部破片で明確な帰属時期を示すことはできない。胎土・焼成からみて縄文時代中期であろう。

## 5 まとめ

雁頭沢遺跡同様に住宅建設用地の限られた範囲の調査で、土器破片1点を発見しただけであり、遺跡の性格を述べることはできない。

調査地点は比較的平坦に見えていたが、ローム層までの深さをみると、50ラインの深いグリッドが50cm、52ラインは71cmと深くなり、地山のローム層は地表面でみるよりも強い傾斜を持っていることがわかった。「位置と環境」の項で述べたように、以前は畠地として耕作されていたことから、平坦化してあることも考えられる。本遺跡は尾根上に平坦部を持っていているように見えたが、ローム層の傾斜のあり方からみると馬の背状のやせ尾根であり、縄文時代の集落遺跡としての立地には適していなかったのであろう。

## VI 結 語

雁頭沢・下原山茂佐久保遺跡とも住宅建設用地という限られた範囲の調査で、わずかな遺物を発見しただけで遺構を検出するまでには至らなかった。

雁頭沢遺跡は過去3回にわたる調査で、尾根上には典型的な環状集落跡の埋没が確認され、その一部はすでに調査されている。本調査地点は、その環状集落跡の南西方向の外縁部に位置し、遺跡全体からみたらわずかな範囲に限られていたうえに、発見した資料も少なく本遺跡の性格を物語ることはできない。

下原山茂佐久保遺跡は、第2次発掘調査の報告で、生活の痕跡があるとすれば本調査地点付近を予想していたこともあり、遺構の発見を期待した。しかし、土器破片1点を発見しただけであった。

両遺跡とも、調査面積が少ない上に、発見した資料も少なく遺跡の性格を述べることはできない。いずれにせよ、遺跡外縁部の様子の一端を窺うことができたといえよう。

最後に、関係者各位ならびに発掘調査にたずさわった方々に厚く御礼申し上げる次第である。

## 引用・参考文献

- 1983 03 長野県教育委員会「昭和54年度 八ヶ岳西南麓遺跡群分布調査報告書」  
1985 07 原村役場「原村誌 上巻」  
1989 03 原村教育委員会「原村の埋蔵文化財16 雁頭沢遺跡（第3次）住宅団地造成に伴う緊急発掘調査概報」  
1991 03 長野県教育委員会「県営金沢工業団地造成計画にかかる下原山茂佐久保遺跡の詳細分布調査」「リゾート等開発地域内の埋蔵文化財分布調査報告書」  
1991 「県営金沢工業団地造成計画にかかる下原山茂佐久保遺跡の調査の概要」

## 雁頭沢・下原山茂佐久保遺跡発掘調査団名簿

団長 平林太尾（原村教育委員会教育長）

調査担当者 平出一治

調査員 平林とし美

調査参加者 菊池利光 菊池行雄 小平章子 清水米美 清水豊一 平林途雄  
守屋喜利治 守屋菊一（順不同）

事務局 原村教育委員会事務局 小池平八郎（教育次長 平成4年4月～5年1月）  
大口美代子（係長） 宮坂道彦 伊藤佳江 伊藤証 平出一治

原村の埋蔵文化財21

雁頭沢（第4次）・下原山茂佐久保（第3次）遺跡

平成4年度 住宅建設に  
伴う緊急発掘調査報告書

発行日 平成5年3月20日

発行 原村教育委員会  
長野県諏訪郡原村

印刷所 日本ハイコム株式会社  
塩尻市北小野4724  
TEL 0263-56-2111

